

就職活動応援特集

上下水道、そして水に関する書籍が年間を通じて多数発行されている。それは読み物だけではなく実務書まで多岐にわたっており、水の世界の幅広さや奥深さを改めて知る機会となっている。水の業界を目指す就活生にとって、知識や教養、実学の共有は重要なファクターとなる。就活への活用や知見の習得の参考となるよう、本紙記者の視点で水に関する書籍を数点紹介する。

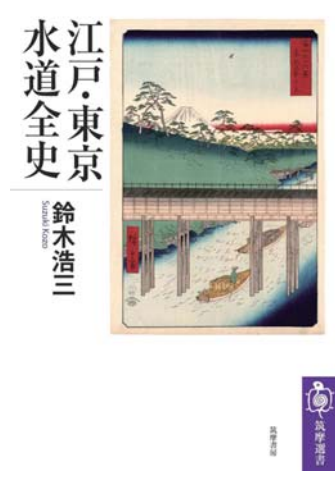


水インフラの事典

世界的に見ても安定性の高さが高く評価されている日本の水インフラ。水道の普及率は98%、下水道の普及率も80%を超えているが、私たちが安全な水を安定して利用できる背景には「水インフラ」の整備が欠かせない。そのなかで「水インフラの事典」(水インフラの事典編集委員会編)が発行された。

本書は「水インフラの事典」(水インフラの事典編集委員会編)が発行された。解説した中項目事典である。第一部「水インフラの歴史」を題材に「水インフラの定義、仕組み」を詳細に解説。第四部では「水インフラの経営」を民営化について触れ、第五部では「水インフラの整備」について触れ、第六部では「水インフラの現状」を、第七部では「水インフラの将来」を、第八部では「水インフラの国際化」を取り上げており、水インフラ・水環境・公共事業を網羅的に学び、深めることができる一冊となっている。

発行に当たり、編集委員長を務めた滝沢智東(大分大学教授)・東京大学立学特任教授は「読者の皆さまが興味を持たれた章や見出し項目から、社会や水インフラの関わりやこれからの水インフラのあり方についてお考えいただければ」とコメントを寄せている。丸善出版から発行。A5判、578頁。税込3万8000円。



江戸・東京水道全史

本書は、江戸・東京の歴史を専門にし、東京都水道局に長年務めてきた著者が、400年を超える水インフラの歴史を分かりやすく解説。水インフラの発展や拡張、かきかき経営の歴史を俯瞰的な視点で紹介。江戸の地味な天然の平地が少ない上、良質な水の確保が難しく、低湿地帯は井戸を掘って温かい水を得るしか得られない環境だったという。江戸に入った徳川家康は、まず先に飲料水の確保と下水道の整備に動いた。ここから今日に至る江戸・東京の水道の歴史が始まった。

小川上水・神田上水・玉川上水と整備される水インフラや江戸上水の歴史を追いつながりながら明治以降の「東京」へと徐々に馴染みのある現代に近づくことで、今の水道の成り立ちを理解し、江戸からの水が歴史がもたらしたことを実感できる。戦後の爆撃による水不足も取り上げ、水道の光と影に触れるのも非常に興味深い。「水道」の波瀾万丈の歩みを知ることができる。

本書を読み進めると、江戸時代の水道に想いを馳せながら、ダイレクトに江戸の生活に関わる水道がより身近に感じられるだろう。水インフラに興味があればぜひ手に取って、水インフラの歩みを追体験してほしい。一冊である。筑摩書房から発行。四六判、400頁。税込2万2000円。



水循環白書 令和7年版

内閣官房水循環政策本部事務局

河川等の水を浄水として生活に利用し、その排水を適切に処理して放流する上水道は、水循環の大きな流れの中で重要な一部を担っている。「水循環白書」は、前年度に政府がまとめた水循環に関する施策とその実施状況をわかりやすく一冊にまとめたもの。水循環基本法で定める国会への報告義務に基づき毎年公表されており、その年の重要トピックを「特集」して大きく取り上げているのが特徴。最新版の特集では、昨年度に政府が閣議決定した新たな「水循環基本計画」に焦点を当て、重点的に取り組むべき施策を解説。取組の方向として「施設等再編や官民連携による下水道一体での最速で持続可能な下水道への再構築」を取り上げている。

人口減少や老朽化が進む中で、災害に強く持続可能な下水道の機能を確保し、事業の効率化・高効率化を推進する。具体的な事例として、位置エネルギーをより一層活用できる「上流取水」や「統廃合」といった施設配置の最適化による省エネルギー化、人工衛星1台を用いた漏水検知システム等のDX導入などを挙げている。

本書を読み進めれば、最新の展開を体系的に把握することができる。水インフラに関心を持った人にとって必読の冊子。内閣官房水循環政策本部事務局公式ウェブサイトより閲覧可能。



流域治水って何だろう?

流域治水って何だろう? 人と自然の力で気候変動に対応しよう

短時間強雨の発生増加や台風の大型化等により近年、浸水被害が頻発している。「局地的大雨」「集中豪雨」などの言葉も身近な言葉になってきた。これらはすべて地球温暖化の影響が顕在化している証とみられ、さらに今後、水害の激甚化・頻発化も予測されている。

これを防ぐ「流域治水」とは、雨水が川に流入する地域(集水域)から、川の氾濫で浸水が想定される地域(氾濫域)までの流域に関わるすべての人が協力して行う水害対策のこと。気候変動を踏まえ水害対策として全国的に取り組むが始まっている。

本書は小学校・中学校・高学年を対象とした「楽しい調べ学習シリーズ」の一冊だが、子ども向けと侮るな。流域治水の考え方や具体例を「水の恵みと流域治水」「流域治水の3つの柱」と具体的な対策「流域治水」(持続可能な社会)の3章に分け、豊富なカラー写真がわかりやすい。言葉のチョイスで読み進めると理解できるような筋立てになっている。自然の力をかした持続可能な水害対策を進めるには「流域治水」が鍵。一人で、誰かと、地域と。流域治水の根本を学びたいすべての読者に届けたい。流石の環境出版社。P11P研究より発行。A4判、55頁。税込3850円。

水を学ぶ 就活生に読んでほしい水の書籍



地方共同法人日本下水道事業団・事業統括部計画課長 久岡 夏樹さん
同 課長代理 小松 海里さん
同 山崎 麗さん

日本の下水道をけん引

日本下水道事業団(J S)は、法に基づき設置された全国唯一の下水道の技術者集団です。昭和47(1972)年の設立当時は、日本全体の下水道普及率も低い状態であり、ノウハウや人手が足りない地方自治体の職務を技術力で支援・代行してきました。この半世紀で日本の下水処理場の約7割に当たる1539カ所の建設に携わり、日本の下水道を実質的にけん引してきました。

ソリューションパートナーとして

J Sでは下水道のライフサイクルに合わせて、設備の計画から設計、施工管理、そして維持管理に至るすべてのフェーズでのサポートを行っています。今では全国の下水道施設は概成していますが、一方で老朽化が進んだ施設の改築・更新が強く求められています。作った当時のノウハウを有するわれわれの力がより一層求められる時代になってきました。

安定性と技術力で下水道に貢献

また、われわれは自治体の「ソリューションパートナー」を標榜しています。地方公共団体の課題やニーズは老朽化対策だけではなく多様化しており、災害時の支援や技術開発をはじめ、官民連携、海外水ビジネス展開など、その裾野はますます広がっています。幅広く事業全体を俯瞰し、地方公共団体とともに初期段階から課題について考え、サポートすることができる唯一無二の存在といえるかもしれません。

1 DAY 仕事体験や入社後の研修の取組み

J Sの仕事を知ってもらうため、およそ40校にOB・OG訪問を行っているほか、高専・大学・大学院に在籍している理系学生を対象に、他のインフラ事業との比較を通じて下水道について理解を深め、過去実際にあったプロジェクトを疑似的に体験できる「下水道事業を知る1 DAY 仕事体験」を実施しています。今年26日には対面(東京)で、1月9日にはオンラインで行う予定です。

入社後は戸田市にある研修センターで学んだ後、各部署に配属されます。業務の根幹である設計・施工管理の部署に配属された後、適性や希望を鑑みてほかの部署にジョブローテーションで回ることになります。年度途中には中間研修があり、研修センターでの研修は自由に参加して学ぶことができます。本社主催、あるいは各部署での現場見学会も盛んに行われています。昨年度からはメンター制度を設けて、同じ課ではない4~5年程度上の先輩職員が後輩職員のさまざまな相談を受ける体制を整えました。

自らの暮らしを見つめれば

日本の下水道は、この50年間で国土に遍く整備され、8割以上の普及率を達成しました。われわれはそれに真摯に取り組む、文字通り支えてきた組織です。下水道は事業ごとにそれぞれ特化している企業はありますが、初期段階から計画を立てて、包括的な業務ができることはJ Sの大きな特徴であり、強みではないかと考えています。われわれの仕事は、下水道という人々の暮らしに必要なライフラインを守っていく、世の中に欠かせないものだと思自負しています。人のために役立ちたいと思われる方、われわれと働いてみませんか。

UV計(有機汚濁測定装置) UV-10

紫外光源に深紫外LEDを採用

- 光源にはLEDを採用
UV光・可視光ともにLED光源を採用。
- 環境・メンテナンス負担を軽減
水銀フリー化で環境負担を低減。
長寿命なLEDでメンテナンス負担を削減。
- 測定方法
採水式と浸漬式の両方式に対応。

JFE アドバンテック 株式会社
URL: https://www.jfe-advantech.co.jp/

本社水環境事業部 TEL.0798-66-1502 FAX.0798-65-7025
東京支社 TEL.03-5825-7360 FAX.03-5825-5591
東北支店 TEL.022-711-7535 FAX.022-711-7534
名古屋支店 TEL.052-565-0070 FAX.052-565-0072
中国・四国支店 TEL.086-440-1580 FAX.086-447-3309
九州支店 TEL.092-263-1671 FAX.092-263-1675

水が流れる、その先に。

足立建設工業株式会社

本社
〒121-0836 東京都足立区入谷8-9-9
TEL:03-3899-0121 FAX:03-5691-7735

豊島本店
〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-9
TEL:03-5957-3344 FAX:03-5952-1056

TECH PLUS
〒121-0836 東京都足立区入谷8-12-15
TEL:03-3857-6611 FAX:03-3857-6634

ADACHI
adachi-tokyo.co.jp